

群 教 セ	G11 - 03
	平25.251集
	小・特別活動

学級の係活動に主体的に取り組む児童の育成

—話し合いを繰り返す学級会活動の工夫を通して—

特別研修員 田口 誠

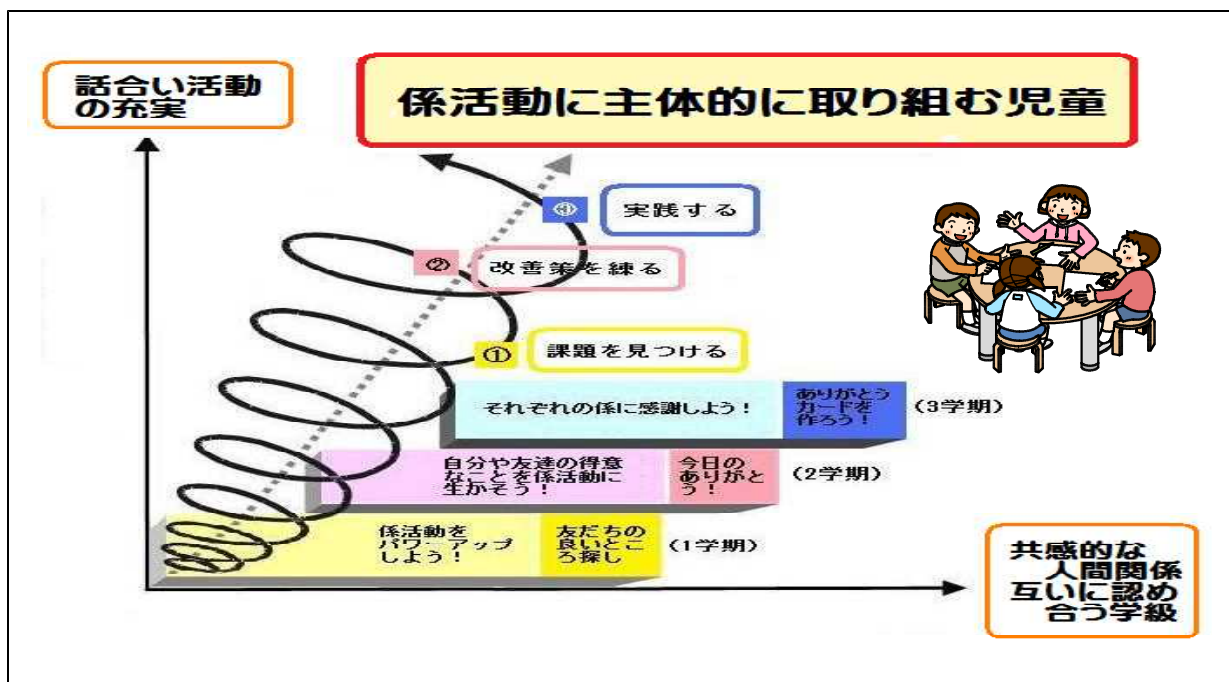
I 主題設定の理由

平成25年度群馬県学校教育の指針には、『「議題に対する集団決定」や「題材に対する自己決定」ができるような話し合い活動を充実させましょう。』と記されている。また、平成24年3月作成された「はばたく群馬の指導プラン」では、「集団での話し合いを通して、集団の目標を決定し、集団で実践する児童生徒の自発的、自治的な活動」を奨励している。このように、児童の主体的な話し合い活動を通して、自発的、自治的な集団活動をすることが求められていると考える。

現在担当している学級では、学級の活動に主体的に取り組んでいると考えている児童の数は少ない。そこで、係活動に焦点を当て、実際に取り組んだ体験から問題点を見付け出し、改善策を話し合ったり、良いところをお互いに認め合ったりする活動を繰り返し行うことで、子どもたちの意識を高め、係活動への主体的な取組につながっていくと考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



学級会において、係活動を議題とし、①課題を見つける → ②改善策を練る → ③実践する → ①課題を見つける → …と、三つの活動を繰り返す。また、友達のよさを確認し合う時間を、帰りの会や授業中に意識して確保していく。そういった活動を継続的に行う場を設定することで、自他のよさに気づき、共感的な人間関係が得られ、互いに認め合うことができる学級づくりにつながり、係活動においても、やらされている活動から主体的な活動に変わっていくであろうと考える。

2 授業改善に向けた手だて

話し合いの経験も少なく、与えられた役割をただ何となくこなすだけといった学級に対して、係活動により主体的に取り組めるようにするために、今まで、係活動への取組は個々に振り返っていたが、クラス全員の問題として、学級会の議題にし、話し合う時間を設けるようにした。

(1) 実践1における研究上の手だて（1学期） 係活動をパワーアップしよう！

- ①自分たちで司会進行させるために、『学級会議計画表』を作成させたり、『司会進行マニュアル』を作成したりした。
- ②自分の考えを事前にまとめておくように、ワークシートを作成した。

話し合いの経験の乏しい子どもたちに対して、今回使用した『司会進行マニュアル』は、難しかったようである。また、ワークシートに事前に自分の考えをまとめておくようにしたことは、話し合いの時間を確保するには、効果的であった。しかし、今回の議題が、教師から与えられたものであったため、話し合い自体に自主性が不足していた。

(2) 実践2における研究上の手だて（2学期） 自分や友達の得意なことを係活動に生かそう！

- ①『司会進行マニュアル』を改訂した。
- ②図1のような掲示物を作成し、計画的に事前指導をするとともに、計画委員以外の児童の話し合いへの意識も高めるようにした。
- ③学級会用のホワイトボードを設置し、話し合う内容を事前に子どもたちに知らせておくようにした。また、事前に考えた意見も掲示しておくようにした。
- ④子どもたちに肯定的な視点をもてるように、友達のよさを見つける活動を事前に行った。

『司会進行マニュアル』は、様々な場面を想定してあり、児童の司会でスムーズに進めることができた。また、学級会用のホワイトボードの設置も、ワークシートと同様に自分の考えを事前にもって話し合いに臨めるため、話し合う時間の確保に有効であった。そして、子どもから提案された議題だったため、いろいろな意見が出され、活発な話し合いになった。

月/日	曜日	時間	活動内容
/			① 活動計画書立案
/			② 議題の決定
/			③ 学級会議ボード設置
/			④ みんなの意見の整理
/			学級会

図1 学級会を開くまで

III 研究のまとめ

1 成果

- 学級会で係活動を議題とした話し合いを繰り返すことで、クラスの問題や自分たちが考えていることを言葉や行動に表すようになった。
- 実践2以降、『週に1回、クラスで遊ぶ休み時間をつくろう』とか、『学級目標の掲示物をきれいに作り直そう』などといった意見が子どもたちから自然と出てくるようになり、係活動への意欲も以前より高まった。

2 課題

- 話し合いの経験が乏しかった子どもたちに対して、学級活動の中で話し合いの時間を多く確保することに課題が残った。限られた時数の中で、係活動の議題に限らず、できるだけ多く、話し合う場を設けることが必要である。
- 短時間で計画的に行えるような事前指導を工夫する必要がある。

3 提言

- 事前指導の時間の確保は大変ではあるが、子どもたちが自分たちの問題について話し合うことは、その問題に対しての意識が高まり、意欲的な取組に結び付いていく。低学年から、段階をふまえて継続的に取り組む必要があると考える。
- 教師が、話し合いにかかわる助言の内容やタイミング等のスキルを身に付ける必要がある。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 単元名 係活動をパワーアップしよう！

2 本単元及び本時について

「はばたく群馬の指導プラン」では「集団での話し合いを通して、集団の目標を決定し、集団で実践する児童生徒の自発的、自治的な活動」を奨励している。つまり、児童の主体的な話し合い活動を通して、自発的、自治的な集団活動をすることが求められているのである。そこで、学習指導要領第6章「特別活動」（第5学年及び第6学年）の中に示されている、「学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活を作るとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動」として、学級の係活動を取り上げてみた。その最初の段階として、「はばたく群馬の指導プラン」の指導例を参考に本実践を行った。

現在、学級の中で利用している『学級マニュアル（クラスのきまり・ルール）』をもとに活動を行っている。実際に取り組んだ体験から、成功したポイントやアイデアを話し合い、学級で共有することで、肯定的な見方、考え方が増えてくるだろうと考えた。また、それらが『学級マニュアル』に反映されることで、子どもたちの意識もさらに高まり、係活動や当番活動の主体的な取組につながっていくと考え、本主題を設定した。

3 授業の実際

『みんなで話し合い、みんなで決定し、みんなで取り組む係活動』をスローガンに、係活動を議題とした2回目の話し合いが行われた。自分も楽しく、みんなももっと楽しくなる係活動にする方法を話し合った。

(1) 事前指導

① 計画委員会

図2のような計画委員会を組織した。そして、昼休みを使って、打合せを行った。まず、司会2名、黒板書記2名、ノート記録1名の役割を分担し、活動計画を作成した。

また、話し合いの進め方を確認した。班になっての話し合いはそれぞれの班の班長が司会を進めることにした。

② ワークシート

一人一人の考えをしっかりとらせるために、また、自信をもってはっきりと発表させるために、事前にワークシート（図3）を配付し、自分の考えを記入させておいた。

学級代表 (男女各1名)	司	黒 板 書 記	記 録
	会		
班 長 (6名)	2	2	1
	班の話し合い (司会)		
担 任	アドバイザー		

図2 計画委員組織図


題 題: **係活動をパワーアップしよう!**

発案理由: 係の仕事をやらなかったり、忘れてしまったりすることが多く、係の仕事内容や朝の会・帰りの会での連絡が後などを工夫して、もっと楽しく活動してほしいと思ったから。(図2)

自分の考え

1学期の係 _____ 係

工夫している点やうまくいっている点



楽しくなるようなアイデア




図3 事前に配付したワークシート

(2) 話し合い

学級会用計画委員を中心に三つの柱で進めた。

【柱1】各係が、工夫している点やうまくいっている点などを発表した。事前に係ごとに黒板に掲示できるように、ホワイトボードで掲示物を作成させておいた。

【柱2】他の係からのアドバイスや新しいアイデアを発表してもらい、意見交流を行った。できない部分を批判するのではなく、肯定的な視点を中心に考えるようにさせた。

また、アイデアが出ないようなら、他のクラスや上級生のいいところを取り入れるといった視点ももってみよう助言した。

S1：自分の仕事を忘れると迷惑をかけてしまうことになるので、係ごとにチェックカードを作ろうよ。
S2：後ろの黒板に、係ごとに連絡コーナーを作って、そこに連絡することを書くようにしたらいいと思います。
S3：係を増やせばいいんじゃないかな。

【柱3】意見を統合して、学級の総意としての意思決定を行った。ここでは、安易に多数決で決定せずに、出された意見を十分に検討し、良さを出し合い、折り合いをつけて修正案をつくるように支援した。また、うまくいった取組の例をいくつか写真を使って紹介し、決定の参考にさせた。

S1：係ごとの人数を増やしても、結局、一人がいくつもの係をやらなくてはならなくなってしまうので、あまり意味がないのではないよ。
S2：朝の会や帰りの会に、『係からの連絡』を入れようよ。
S3：それなら、すぐできそうだね。
S4：楽しくなるような活動だから、ポイントカードを作って、しっかりできた係にはポイントがたまっていく...なんてどうかな。
S1：それ、楽しそうだね。



今回の話し合いの結果、『楽しい』という言葉に着目したので、『仕事内容を確認し、チェックポイントを設けて、できたらシールを貼っていく。シールは、1学期の係の人が判定して、貼る』ということになった。

4 考察

図4のように、各係で自分たちの活動のチェックポイントを明確にし、それを毎日、1学期の係の人が判断し、忘れずにできたらシールを貼っていくという活動を実践した。しかし、実際には、この活動だけでは、自分がやらねばならないことを忘れないようにやっているだけであり、主体的な取り組みにまでは至っていない。

また、子どもたちの話し合い活動の経験不足も改めて実感した。司会進行のマニュアルをもっときめ細かなものに改善する必要があると感じた。

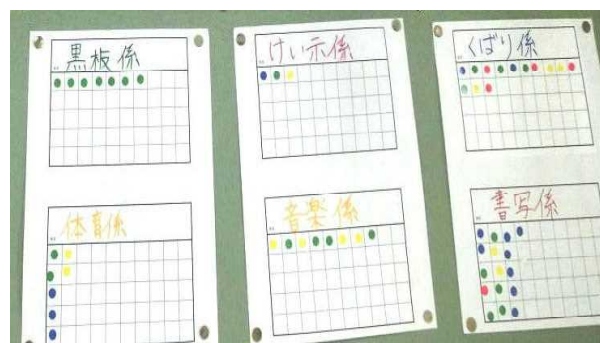


図4 ポイントシールを貼っていく実践の様子

実践2

1 単元名 自分や友達の得意なことを係活動に生かそう！

2 本単元及び本時について

学級内の組織づくりや仕事の分担処理という、真っ先に考えられるのが、係活動や清掃・給食などの当番活動である。毎日の活動である係活動や当番活動の取組を振り返らせることが、学級の生活を改善する話し合い活動になる。それに加えて、現在、学級の中で『学級マニュアル』というものを取り入れている。『学級マニュアル』とは、学級のきまり、約束、係活動、日直の仕事、掃除の分担表、給食の流れ等がまとまっている冊子で、各自がいつでも見られるところに保管している。その『学級マニュアル』について、実際に取り組んだ体験から問題点を見つけ出し、改善策を考え合い、話し合う活動を行う。その話し合いの結果が『学級マニュアル』の改訂として反映されることで、子どもたちの意識も高まり、係活動や当番活動の主体的な取組につながっていくと考えた。

1学期の話し合いの結果、『仕事内容を確認し、チェックポイントを設けて、できたらシールを貼っていく。1学期の係が判定して、シールを貼る。』ということになり、それを実践してきた。しかし、実際には、この活動だけでは、自分がやらねばならないことを忘れないようにやっているだけであり、主体的な取り組みにまでは至っていない。そこで、係活動の根本的なことから変えてみようと考え、本議題を設定した。学級のためにやらねばならない当番活動と自分の得意なことがみんなのために生かせるような係活動とに分け、自分の得意分野で係活動することで、目標を定めたり新しい企画を考えたりしやすくなり、児童の主体的な取り組みに結びついてくると考えた。また、話し合い活動において、うまくいったポイントやうまくいくであろうアイデアを話し合うことで、自他のよさに気づき、共感的な人間関係が得られ、互いに認め合うことができる学級づくりにつながることも期待している。特に、係活動においては、学期ごとに話し合い、1年を通して活動しているものなので、実践内容や児童の変容を比較するのにも適した議題と考える。

3 授業の実際

学級会ボード(図5)を設置して、事前に『自分や友達の得意なことを生かした係活動』を考えさせ、そこに掲示させた。前日までに提案された係は、レク係・ごみすて係・おりがみ係・あいさつ係・勉強係の五つであった。

話し合いは、計画委員を中心に三つの柱で進めた。

【柱1】事前に考えてきた『自分や友達の得意分野を生かした係活動』について発表した。

S1: わたしは、このクラスにレク係があるといいと思います。週に1回、クラスみんなで一緒に楽しめるような計画を立てたいです。

S2: ぼくは、おりがみ係を提案します。おりがみが得意な人が集まって、掲示物と一緒に季節のかざりをおりがみで作ってかざると、教室がもっと明るくなると思います。

ワークシートで事前に自分の考えをまとめておいたおかげで、理由や具体的な活動内容を加えて発表することができた。

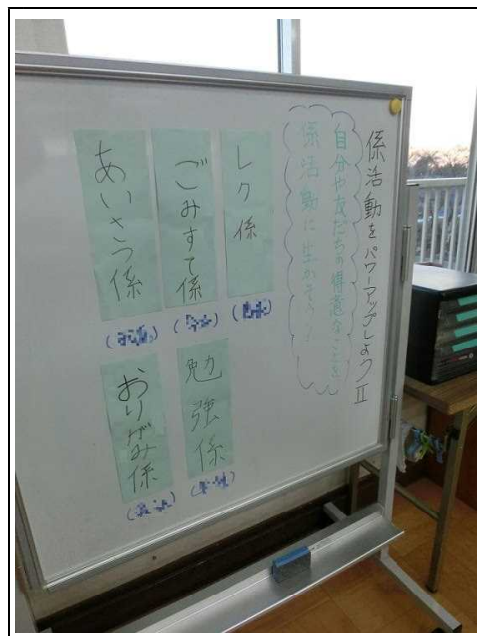


図5 学級会ボード

【柱2】アンケートの結果から、全体的に係活動のやりがいが高い原因について話し合った。事前に行った係活動に関するアンケートの結果を「必要性」「やりがい」の二つの視点でグラフに表した。必要性は最も高いがやりがいの最も低い①と必要性もやりがいも高い⑧が何の係かをクイズにして当てる活動を行った。(図6)

【柱3】このクラスに必要な係を決定した。

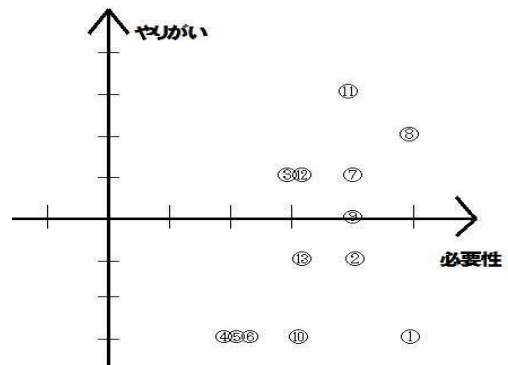


図6 アンケート結果をまとめた図

- S1: 音楽係や書写係は、ほとんど仕事がないので、みんなまとめて、連絡係にしてしまえばいいんじゃないかな。
- S2: 今までの掲示係に折り紙係をくっつけて、デコレーション係にしたらどうだろう。
- S3: ぼくもその係やってみたい。
- S4: 配り係が1人では大変なので、あいさつ係と一緒に、協力してやろうよ。
- S5: ぼくは、折り紙係を提案します。折り紙が得意な人が集まって、掲示物と一緒に季節の飾りを折り紙で作って貼れば、教室がもっと明るくなると思います。

話し合いの結果、次の九つの係に決定した。

- ・かざりつけ係 ⇒ 今までの「掲示係」と新しい「おりがみ係」を合わせたもの
- ・総合連絡係 ⇒ 「連絡係」「音楽係」「理科係」「書写係」を統一したもの
- ・シェア係 ⇒ 配布物とさわやかなあいさつをみんなに配る係
- ・お楽しみ係 ⇒ 新設した「レク係」の名前を変えたもの
- ・健康係 ⇒ 「保健係」に教室の換気など新しい仕事を追加した係
- ・きれい係 ⇒ 新設した「ごみ捨て係」の名前を変えたもの
- ・黒板係、生き物係、体育係は、今まで通り継続



図7 お楽しみ係の連絡ボード

そして、今まであった他の係は、給食当番や日直の仕事を確認した。

4 考察

- 多数決をとらずに、意見交換を繰り返すことで、新しい係とそのメンバーが自然と決まったので、良い雰囲気の中、話し合いが終了し、子どもたちの係活動への意欲も以前より高まった。
- 様々な面を想定した司会進行のマニュアルを作成したため、司会が話し合いをスムーズに進めることができた。計画委員を中心にした話し合い活動を繰り返すたびに、子どもたちも慣れてきて、事前の打ち合わせも、実際の話合い活動もスムーズに行えるようになってきた。また、教師にとってもタイミング良く助言できるようになるスキルアップに結びついていくものと考えた。
- クイズ2問は、話し合いへの興味を高め、観点を意識させるのに効果的だった。しかし、やりがいが低い原因を話し合ったことは、肯定的な視点をあてた話し合いの流れに逆らってしまっただけでなく、その後の話し合うの時間も削ってしまったので、アンケート結果の説明にとどめておくべきだった。
- 『話し合いが混乱しているとき』『話し合いのめあてから、話し合っている内容がそれているとき』の助言のタイミングが難しく、特に柱3の話し合いにおいて、最初の段階で軌道修正をしておくべきであった。